

# 終わりと始まり



池澤夏樹

政治の課題は重要な緊急か、あるいはその両方である。

安倍内閣が自分のサイコロと国民の金で大ばくちをするのはずいぶん危険なことだとぼくは思う。インフレに苦しんで借金が残るだけにならないといが、結果が出るのはまだ先だろう。

沖縄は緊急にして重要。

一月二十七日、沖縄の四十一の市町村せんぶから首長、議長、県議百四十人が上京して、オスプレイ配備の撤回と普天間基地の県内移転反対を訴えた。この人たちは鳥合の衆ではない。公正な選挙によって選ばれた県民の代表である。またこの二つについて、琉球新報と毎日新聞による世論調査では県民の九割が反対という意思表示をしている。九割は普通ならばあり得ない数字だ。日本国一つの県が一個の事案につ

いとして今までつきり嫌だと言つたことはかつてなかった。

しかし彼らの声は届かない。國、ならびに一都一道二府四十二県、また本土のメディアの多くはこれを完全に無視している。

沖縄が普天間の海兵隊基地を撤去してほしいというのは感情論ではない。ただ危険だからということではない。

現実の話、沖縄に海兵隊を常置させる根拠はないのだ。オスプレイの配備で沖縄人が怒るのは、日米両方の政府があからさまに嘘をついているからだ。

ハワイ島で、この飛行機が飛ぶ経路から千六百㍍のところにカメハメハ大王の遺跡があるので、海兵隊は訓練飛行を止めた。滑走路への進入コースから百三十㍍のところに学校と幼稚園がある普天間への配備は止められなかつた。沖縄の子供たちの命はそこまで軽いのか？

軍隊は若い者たちを集めて毎日のよ

うに喧嘩の練習をさせる。暴力沙汰や

兵がらみの犯罪は少なくない。

それを抑え込むために日米地位協定

圧倒的に不利。沖縄は何十年も前から

地位協定の改定を日本政府に求めてい

たところが少くない。実例としては那覇の新都心を見ればいい。ハブしか

いなかつた荒れ地が繁華街になった。

オースプレイの配備で沖縄人が怒るのは、日米両方の政府があからさまに嘘をついているからだ。

日本人の大半は沖縄人を別種の人間

と見なしている。すばらしい観光地、癒

やしの島、定年後は移住もいいかもし

れない、歌手と俳優の供給源。そして

沖縄の側から構造的差別という言葉

が出てきている。差別といつても、日

常の場でちょっと嫌いとか、あいつは

ねとか、そのレベルの差異感ではない。

小説家が大げさなことを言つている

と笑つてほしい。しかしこの恐ろしい

妄想には現実的な土台があるのだ。

するは強襲揚陸艦の基地である佐世保からであつて普天間からではない。

基地の中に閉じ込めておけるものではなく、外へも滲み出す。沖縄で米

兵の中の地域対立は國を揺るがす。

（マイナス沖縄県民）は目を背けるか。

國の中の地域対立は國を揺るがす。

この地域への構造的差別ではなかつたか。

縁起でもないことを敢えて言う。

二〇〇四年八月の沖縄国際大学への

米軍ヘリ墜落事件で米軍はまことに横暴

にふるまつたが、幸いこの事故では住

民への被害はなかつた。今もしオース

プレイが墜ちて、もし一九五九年の宮森

小学校米軍機墜落事件のようにたくさ

ん死者が出たら（小学生一人、一般

住民六人）、抗議する沖縄人は基地に

なだれ込むだろう。米兵は彼らを撃つ

かもしれない。

坦は当然、という思い込みが一都一道

二府四十二県の側にある。その現物が

普天間でありオスプレイなのだ。